



夏のおはなし会(おはなしのへや)

「読書習慣」

秋田県教育庁生涯学習課長 中山 恭幸

小学校3年生から今日に至るまで、「週刊少年ジャンプ」は欠かしたことがない。マンガを読書にカウントしても良いなら、私は胸を張って「読書が好きだ」「読書習慣がある」と言いたい。しかし、「県民意識調査」に「あなたは読書が好きですか。」という質問項目があるが、残念ながらその「読書」にマンガは含まれていないようだ。本年4月に閣議決定された第4次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」では、中学生までの読書習慣の形成が不十分なことが指摘されている。また、読書習慣の形成に向けて、発達段階ごとの効果的な取組を推進していくことが重要であるとしており、例えば、家庭においては、読書習慣付けの重要性の理解促進や、家読（うちどく）やブックスタートなど家庭での読書活動の支援が方策として示されている。

何事も継続するには習慣化することが必要で、早ければ早いほど良いように思う。4歳から始めた柔道は生活の一部のような感覚になっているし、週刊ジャンプはもはやいつ止めたら良いのか分からず「習慣」少年ジャンプ化している。

4歳になる息子には3歳から読み聞かせを始めた。今では絵本を読んでも寝るのが日課になり、「今日は絵本なし!」と言うと泣いてしまうほどである。最近では、1歳の娘が、ダーダーと言いつつ私のところに本を持ってくるようになった。文部科学省の委託調査によれば、「読書好き」と「学力」には相関関係があることが明らかになっている。親としては、このまま本を読む習慣が身に付いてくれれば嬉しいが、その結果がでるのはもう少し先になりそうだ。

最後に、私は秋田に赴任してきてからフィットネスジムで筋トレを始めた。3週間、1ヶ月、3ヶ月の壁を何とか乗り越えて半年になるうとしている。今では1週間休むと筋肉が落ちて、今までの努力が水泡に帰すような気がして、ジムに行かずに居られなくなっている。何かを習慣化するのは、大人になってからでも遅くはないようだ。

学校図書館への支援

－学校図書館運営の充実と、校内の読書活動推進を目指して－

県立図書館では、平成19年度から高等学校や特別支援学校の学校図書館に対して、様々な支援を行っています。今回は、今年度の取組から学校図書館訪問、本の貸出し、学校図書館職員等研修会についてご紹介します。

1. 学校図書館訪問



複数の県立図書館職員が訪問し、様々な観点から助言を行います。

学校図書館訪問とは、県立図書館の職員が高等学校や特別支援学校の図書館を訪問し、情報交換や、図書館運営・校内の読書推進に関する助言を行う取組です。今年度は20校を訪問しました。

学校図書館それぞれの状況によって、相談内容も多岐に渡ります。校内の読書環境、図書委員会の活動、本の展示方法等について、担当の教職員と一緒に良い取組を考えます。

今後も、個々の学校の要望に応じながら、きめ細かい支援を行っていきます。

2. 学校図書館への本の貸出し



セット資料は、すぐに展示できるよう、テーマ名を記した看板も入っています。

高等学校や特別支援学校へ、約40冊の本をセットにし、コンテナに入れて貸出しをしています。コンテナは、57のテーマに分かれ、全部で248セットを用意しています。

テーマは、教科の学習に関連するもの（「数学の世界」「洋書の世界」）、生き方や進路に関連するもの（「私たちはどう生きるか」「読むハローワーク」）、趣味や教養に関するもの（「作家発掘」「放課後の

楽しみ」）など、幅広く設定しています。たくさんの学校から利用の申込みがあり、学校図書館での展示や、授業等で活用されています。今年度は、約13,000冊の申込みがあり、毎月、貸出しを行います。11月にはセットの追加・更新を行う予定です。

またセット以外の本については、各校からの要望に応じて、1校につき50冊まで、一か月間貸出しをしています。授業や先生の教材研究等で本をまとめて借りたい場合などに利用されています。

3. 学校図書館職員等研修会



情報交換会では、写真をスクリーンに映しながら、発表を行いました。

8月2日(木)に、多目的ホールを会場として、学校図書館職員等研修会を開催しました。当日は、高校や特別支援学校の教職員・生徒合わせて42名が参加し、講義・ワークショップ、情報交

換会を行いました。

講義・ワークショップでは、「ポスター・チラシの作り方」と題し、参加者が効果的なポスター・チラシの制作のポイントを学びました。情報交換会では、各校の図書委員が日頃の活動に関する発表を行いました。互いの発表を聞くことをとおして、参加者は、他校の活動の特色について理解を深めていました。

参加者からは、「ポスターをつくる上での注意点をよく知ることができた」「図書委員の発表から様々な取組を知ることができた」「他校の良いところをまねて、もっと図書館を活気のあるところになりたい」などの声が挙がりました。

北日本図書館大会

6月14日（木）～15日（金）、秋田市文化会館小ホールを会場に、北日本図書館大会秋田大会が開催されました。東北各県から図書館や学校図書館関係者など201名が集まり、「図書館が変わる・地域が変わるーまちづくりに結びつく図書館ー」をテーマに、基調講演と事例発表が行われました。

始めに、まちライブラリー提唱者、森記念財団、大阪府立大学観光産業戦略研究所の磯井純充氏が「まちライブラリーを活用した本のある居場所～個人から図書館までの事例を交えて～」と題して基調講演を行い、「まち」の中での図書館の役割について、各地にあるまちライブラリーの事例をとおしてお話しいただきました。

続いて、八郎潟町立図書館の「地域の“中”の図書館～ジブンゴトとしての気づきの場～」、宮城県の大崎市図書館の「あたり前のことが普通にできる図書館になること」、山形県の市立米沢図書館の「中心市街地に建つ『ナセBA』（市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリー）～新図書館の事業展開と、まちなか活性化への課題～」という3つの事例発表がありました。2日目に行われたパネルディスカッションでは、質問も多く、活発な意見交換が行われました。全2日間の日程をとおして、図書館がまちづくりにどのように関わっていくのかを考える貴重な機会となりました。



磯井純充氏による基調講演

「県立図書館探検隊ー図書館の裏側をのぞいてみようー」を開催



ボードゲームも郷土資料として保存されていることを聞き、参加者は驚いていました。

夏休み特別企画として、8月16日（木）に小学生とその保護者を対象とした、県立図書館の書庫見学を開催しました。当日は、小学生とその保護者50名が参加し、閲覧室のコーナーの説明と、普段は入ることができない書庫の見学をしました。

1階書庫では、県立図書館で所蔵している「秋田魁新報」の一番古い号（明治33年1月1日）の紙面や、永年保存している雑誌や昭和39年開催の東京オリンピック特集の写真雑誌、県内の高等学校や特別支援学校に貸し出している支援用図書セットの見学をしました。

4階書庫では、市町村広報誌の創刊号や、秋田をテーマにしたボードゲームや釣りカレンダーなどの様々な種類の郷土資料や、和紙をちりめん布のように加工したちりめん本等、明治期に収集した貴重な資料を閲覧しました。

参加者は職員の説明に対して質問したり、実際に資料を手にとって見たりと、熱心な様子で参加していました。

書庫や閲覧室の見学をとおして、県立図書館の特徴や役割についての理解を深めることができる機会となりました。

Pick ~各班の話題~

図書資料班

郷土資料コーナー展示の紹介



平成30年度第3回郷土資料コーナー展示「海の恵み」

当館の蔵書冊数は平成29年度末で90万冊を超えました。その中で秋田県関係の郷土資料は約13万冊を所蔵していますが、大部分が書庫に保管されており、なかなか皆様の目に触れる機会があり

ません。

これまでも郷土資料コーナーではその膨大な資料の中からテーマに沿ったものを選び、展示・貸出しを行ってきました。今年度からは、貸出禁止で書庫に保存されている資料も御覧いただけるよう、ガラスケースやパネルを使って展示しています。

図書館にお立ち寄りの際には、どうぞ御覧ください。

情報班・サービス班

ミニ展示「防災を学ぼう」



「防災を学ぼう」展示

今年は、地震による家屋の倒壊や液状化現象、大雨による洪水、台風による高波など、様々な災害による甚大な被害が日本各地で発生しました。県立図書館では9月1日の「防

災の日」にちなみ、「防災を学ぼう」と題したミニ展示を行いました。

(開催期間：8月30日(木)～10月2日(火))

県内各市町村が発行した災害ハザードマップ等を掲示し、当館所蔵の防災関係資料と一緒に展示を行いました。展示は終了しましたが、今後も防災関係資料の収集・提供を継続して行っていきます。

企画・広報班

ビジネスセミナー



学生からシニア世代まで、幅広い年代の方々に御参加いただきました。プロの実演に、皆興味津々！

9月6日(木)、多目的ホールにてビジネスセミナーを開催しました。R-room 鈴木竜典写真室の代表で写真家の鈴木竜典氏から「『写真のチカラ』でビジネスチャンスを作る方

法。」と題して講演をしていただきました。五感のうち、視覚からの情報が瞬時に記憶として残るため、写真を見る相手に何を伝えたいのか、目的を明確化して撮影に臨むことが大切だとお話いただきました。また、光の演出で写真から受ける印象が大きく変わることについて実演していただくと、全く印象が違う写真が仕上がり、参加者からは驚きの声が上がりました。

E v e イベント・催し物のお知らせ～

■秋田をまなぶ講座シリーズⅨ

音楽セミナー「旅もしくは回帰」

今年で10周年を迎える音楽セミナー。「旅もしくは回帰」のテーマに沿った7つの楽曲について鑑賞し、その曲の背景を学びます。

【期日】12月9日(日)

【時間】午後1時30分から午後3時

【会場】県生涯学習センター 3階講堂

【出演者】

秋田大学名誉教授 佐々木久春

二期会会員 土崎 宏人

ピアノ伴奏 大山 英子